

# 聖マリア国際協力ニュース

第 110 号

平成 21 年 10 月 1 日発行

## 韓国人研修生の研修旅行に同行して

サンループ 井手みこ



長崎大学 山下教授の教室にて

8月29日より31日まで、韓国カトリック医療協会看護(看護師グループ)の研修旅行が実施され、私も同行する機会を得ましたのでご報告します。

今回の旅行では、従来から実施していた長崎市内の教会等の見学に加え、長崎大学 山下俊一教授による講義や、五島にある「宗教法人お告げのマリア修道会 聖マリア病院」(以下、五島聖マリア病院)の訪問なども実施しました。

長崎大学 山下教授の講義では、「原子爆弾の被爆者医療」や「チェルノブイリ原発事故の被災者支援」などについて、興味深いお話を聞くことができました。研修生たちは「初めて聞くことばかり」だと深く聞き入っていて、とても意義深い講義になりました。また自身がカトリック教徒である山下教授も「海外のカトリック教徒との交流は重要で、私も参加できて嬉しかった」と喜んでおられました。

五島聖マリア病院への訪問は、「(当院以外で)カトリックの精神を理念に掲げて運営されている病院を見た」という韓国側の希望で行うことにはしたのですが、同時に「日本における僻地医療の状況を研修生に見て欲しい」との思いがこちらにはありました。この病院は修道会の運営なので、多くのシスターが医師や看護師、介護福祉士として勤務



五島聖マリア病院のシスターたち

夜は、病院や老人ホームのスタッフの方々がバーベキュー大会を開いて下さいました。肉・野菜だけでなく、現地の海の幸がふんだんに用意され、その豪華さには目を見張りました。そして食事が進み、研修生との会話が弾んできたところで、シスターたちが研修生のために「ソーラン節」の踊りを披露されました。これには研修生たちも大喜びで一緒に踊りだし、またそのお返しとして、韓国の歌と踊りも披露してくれました。研修生たちは「温かく家族的な雰囲気がとても嬉しかった」と、シスターをはじめスタッフの方々の温かな心遣いに感謝していました。

今回の研修旅行は、言葉の違いを超えて、日本人と韓国人のお互いの気持ちを分かち合うことができた貴重な機会でした。また医療に従事する者として忘れてはいけないことを再認識できた機会でもありました。今回の研修の実施に際し、ご協力いただいた多くの方々に感謝を申し上げます。

## 韓国カトリック医療協会 看護師グループ研修報告

国際事業部 矢山進一



病院見学中の研修生たち

去る8月25日より9月5日まで、本年度の韓国カトリック医療協会看護師グループ研修を実施し、韓国より8名の研修生が来院しました。今回の研修では、長崎県五島にある「お告げの修道会 聖マリア病院」の訪問を含めた2泊3日の長崎・五島研修旅行を実施しました。その「お告げの修道会 聖マリア病院」の方からも、後日、「研修生の皆さんの明るさ、パワーには圧倒されました」と伝えられるほど、元氣溢

しておられます。離島という環境のため高齢者が多く、病床の多くは療養型です。当院と同様に、カトリックの愛の精神を理念とされており、実際にどの職員の方々も、地域の高齢者を救うことを使命と感じて働いておられるように思われました。研修生たちも「シスターたちが患者を思う気持ちが伝わってきた」とたいへん感銘を受けた様子でした。

病院見学の後は、特別養護老人ホーム「聖マリアの園」へ移動しました。入所者のご老人たちが車イスに乗って施設内にあるチャペルへ集まり、ミサに参加しておられる光景を見た時は、この地における信仰の重みを感じました。



踊りや聖歌を披露するシスターたち

今回は研修生たちも大喜びで一緒に踊りだし、またそのお返しとして、韓国の歌と踊りも披露してくれました。研修生たちは「温かく家族的な雰囲気がとても嬉しかった」と、シスターをはじめスタッフの方々の温かな心遣いに感謝していました。

今回の研修旅行は、言葉の違いを超えて、日本人と韓国人のお互いの気持ちを分かち合うことができた貴重な機会でした。また医療に従事する者として忘れてはいけないことを再認識できた機会でもありました。今回の研修の実施に際し、ご協力いただいた多くの方々に感謝を申し上げます。

以下に研修生の本研修および聖マリア病院に関する感想・印象を掲載しておりますが、多くの研修生が、「一つでも多くのことを伝えようとする職員たちの心が伝わってきた」、「とても親切で、私たちに配慮してくれた」と当院職員に対する感謝の意を述べています。研修の期間中、ご協力いただいた各方面の皆様には、私の方からも感謝申し上げます。

また来年2月には技師グループ研修が予定されており、臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師、栄養士の韓国人研修生が来院します。その際には、今回と同様、多くの方々のご協力をよろしくお願い致します。(※ 右頁に続く)

(※左頁より続く)

### ①研修全般の感想

「細かい配慮や様々なことを一つでも多く伝えようとする職員たちの心が伝わってきた」、「徹底した準備がなされていたおかげで、研修で学んだことが今後の業務にとっても役立つと思う」

### ②聖マリア病院職員の印象について

「院内ですれ違う職員の方々が笑顔で挨拶してくれる」、「とても親切で、優しさが普段から身につけているような気がする」、「常に患者さんのことを優先して働いている」、「自分の職務に忠実で、最善を尽くして働いている」

### ③病院の中の印象について

「院内の空間が広く、余裕が感じられる」、「院内の色彩が明るく、温かさを感じた」、「院内のどこに行っても静かな雰囲気である」、「整理整頓がよくできており、

体系的に業務を行っている」、「診療支援部門の協力体制が充実していて、羨ましかった」、「病棟でのミニステーションの設置など、至る所で患者を配慮した工夫が見られた」



交流会に集まった病院職員たち

### ④その他、日本滞在中の印象

「街のネオンが少なく、また配布資料が両面印字されている等、節約の意識が浸透していると感じた」、「長崎原爆資料館の見学では心が痛んだ」、「何より日本人の親切さが印象に残った」

※以上、研修生の了解を得て、研修アンケートに書かれた内容から抜粋しました。

## JICA 研修コース「病院経営・財務管理」開始

国際事業部 矢山進一

9月24日より2009年度 JICA 集団研修「病院経営・財務管理」コースがスタートしました。これまでに117名(53カ国)の方が当コースを修了していますが、開設して15回目を迎える今回は、9カ国より9名の研修員が参加しています。

この研修コースは、病院経営の担当者に対する効率的な経営・財務管理のためのノウハウの提供を行うことで、参加者が効率的・効果的な病院運営を行えるようになることを目的として実施しています。基本的に聖マリア病院各部門の責任者を講師として、日本の医療保険制度や病院内における各部門の役割、また部門間の連携などについて、講義だけでなく見学や演習を交えて、より理解が深まるように工夫したカリキュラムを実施しています。

コースが修了する11月13日までの期間中、多くの職員の皆様には講師をお願いしたり、また院内見学の際には説明役をお願いしたりなど、いろいろな形でご協力をいただくこととなります。日々の業務でたいへんお忙しいと存じますが、研修員が聖マリア病院で学んだことが、研修員たちの母国における病院や保健医療制度の改善に繋がる可能性も大いにあります。このことを念頭に置いて、丁寧なご指導を心がけてくだされば幸いです。

また研修期間中には、研修員と病院職員との交流会を10月6日(火)と10月23日(金)に開催予定しています。国際協力・国際交流活動に興味をお持ちの方は、この機会にぜひご参加ください。(※交流会の詳細については後日ご案内いたします。)

## JICA 研修員よりご挨拶

この研修プログラムによって得られる知識は、私たちの母国において大いに役立つことを確信しています。また私たちが日本の文化や社会についての知識を深めることにより、私たちの母国と日本との関係は、今後ますます強くなっていくことと思います。このような機会を与えてくださった日本政府、JICA、そして聖マリア病院の皆様には、研修員を代表して心から御礼申し上げます。

ムスターファ (南アフリカ)



来日した研修員 ※左よりティヴィッドさん(①ウガンダ)、マグディさん(②エジプト)、シーチャンさん(③ラオス)、タインさん(④ベトナム)、ムスターファさん(⑤南アフリカ)、オマニカピさん(⑥トーゴ)、アラスライさん(⑦スリランカ)、ユースフさん(⑧チャド)、スティープさん(⑨リベリア)、ボワさん(⑩カンボジア)



研修員たちの母国(上記氏名の番号に符合)

※上記研修員のうち、エジプトのマグディさんは事情により研修開始前に帰国されました。

## 今月の動き

### 【派遣】

・10月6日(火)~10月26日(月)  
磯東一郎(東京事務所); JICA 地域保健システム向上プロジェクトのため、短期専門家としてボリビア国へ派遣。

